

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号

特許第7075112号

(P7075112)

(45)発行日 令和4年5月25日(2022.5.25)

(24)登録日 令和4年5月17日(2022.5.17)

(51)国際特許分類

F I

A 4 7 H 13/04 (2006.01)

A 4 7 H 13/04

請求項の数 6 (全7頁)

| | | | |
|----------|----------------------------|----------|-------------------|
| (21)出願番号 | 特願2018-78508(P2018-78508) | (73)特許権者 | 518133359 |
| (22)出願日 | 平成30年4月16日(2018.4.16) | | 有限会社舞織カーテン |
| (65)公開番号 | 特開2019-181034(P2019-181034 | | 熊本県熊本市南区八幡七丁目二番三号 |
| | A) | (74)代理人 | 110001601 |
| (43)公開日 | 令和1年10月24日(2019.10.24) | | 特許業務法人英和特許事務所 |
| 審査請求日 | 令和3年3月23日(2021.3.23) | (72)発明者 | 北野 玉志 |
| | | | 熊本県熊本市南区八幡七丁目二番三号 |
| | | | 有限会社舞織カーテン内 |
| | | 審査官 | 砂川 充 |

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 カーテン吊下器具及びカーテンセット

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

カーテンバランスの上縁を支持するバランス支持部と、カーテンレールのランナーに係合するランナー係合部と、既成カーテンの上縁を吊り下げる吊下部とを備え、前記吊下部の上下方向の位置が調整可能であり、更に前記吊下部を上下方向に移動可能に保持する保持部材を備え、前記保持部材はベルト状をしており、このベルト状の保持部材は、そのベルト面がカーテンバランスの裏面と直交するように形成されている、カーテン吊下器具。

【請求項 2】

カーテンバランスの上縁を支持するバランス支持部と、カーテンレールのランナーに係合するランナー係合部と、既成カーテンの上縁を吊り下げる吊下部とを備え、前記吊下部の上下方向の位置が調整可能であり、更に前記吊下部を上下方向に移動可能に保持する保持部材を備え、前記保持部材は、その下端部に前記吊下部が下方に抜けるのを防止するストッパーを有する、カーテン吊下器具。

【請求項 3】

前記バランス支持部は、前記カーテンバランスの上縁に突き当たる突起を有する、請求項 1 又は 2 に記載のカーテン吊下器具。

【請求項 4】

前記ランナー係合部の上下方向の位置が調整可能である、請求項 1 から 3 のいずれかに記載のカーテン吊下器具。

【請求項 5】

請求項 1 から 4 のいずれかに記載のカーテン吊下器具と、前記カーテン吊下器具のバランス支持部で上縁を支持されているカーテンバランスと、前記カーテン吊下器具の吊下部で上縁を吊り下げられている既成カーテンとを備えている、カーテンセット。

【請求項 6】

前記カーテンバランスは、前記吊下部を下限位置としたときに、前記既成カーテンの上縁が隠れるような長さを有する、請求項 5 に記載のカーテンセット。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、既成カーテンの吊り下げ丈を調整するためのカーテン吊下器具とそれを用いて構成されるカーテンセットに関する。

10

【背景技術】

【0002】

既成カーテンの吊り下げ丈を調整するためのカーテン吊下器具として、本発明者らは特許文献 1 において、カーテンの上縁を支持する支持部と、カーテン案内部材に係合する係合部と、該カーテンの鉛直方向の途中を保持するための保持部とを有するカーテン吊下器具を開示した。

このカーテン吊下器具によれば、保持部でカーテンの鉛直方向の途中を保持することにより、既成カーテンの吊り下げ丈の調整幅を大きくできる。

【0003】

20

しかし、このカーテン吊下器具は、保持部でカーテンの鉛直方向の途中を保持することにより既成カーテンの吊り下げ丈を調整するものであるから、吊り下げ丈を短くすることはできるものの、吊り下げ丈を長くすることはできない。

また、このカーテン吊下器具は、保持部でカーテンの鉛直方向の途中を保持することから、カーテンの裏面にカーテンが折り返されたような折返し部が生じ、この折返し部にホコリ等が溜りやすいという問題がある。更に、このカーテン吊下器具を用いたカーテンの裏側にレースカーテンを設置している場合、このカーテンを開閉する際に前記の折返し部がレースカーテンと干渉して、このレースカーテンも開閉されるといった問題もある。

【先行技術文献】

【特許文献】

30

【0004】

【文献】特開 2003 - 230480 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

本発明が解決しようとする課題は、既成カーテンの吊り下げ丈を従来よりも自由に調整できる技術手段を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の一観点によれば、次のカーテン吊下器具が提供される。

40

カーテンバランスの上縁を支持するバランス支持部と、カーテンレールのランナーに係合するランナー係合部と、既成カーテンの上縁を吊り下げる吊下部とを備え、前記吊下部の上下方向の位置が調整可能である、カーテン吊下器具。

【0007】

本発明の他の観点によれば、前記本発明のカーテン吊下器具と、前記カーテン吊下器具のバランス支持部で上縁を支持されているカーテンバランスと、前記カーテン吊下器具の吊下部で上縁を吊り下げられている既成カーテンとを備えている、カーテンセットが提供される。

【発明の効果】

【0008】

50

本発明のカーテン吊下器具によれば、既成カーテンの上縁を吊り下げる吊下部の上下方向の位置が調整可能であるので、既成カーテンの吊り下げ丈を従来よりも自由に調整できる。また、本発明のカーテン吊下器具によれば、既成カーテンに前述のような折返し部は生じないので、ホコリ等が溜りやすいという問題やレースカーテンと干渉するといった問題は生じない。

【 0 0 0 9 】

更に、本発明のカーテンセットによれば、前記カーテン吊下器具により既成カーテン（カーテンセット）の吊り下げ丈を従来よりも自由に調整できると共に、カーテンバランスにより高級感を付与することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 0 】

【図 1】本発明の一実施形態であるカーテン吊下器具を示し、（ a ）は全体の側面図、（ b ）は（ a ）の A - A 矢視図、（ c ）は（ a ）の B - B 矢視図。

【図 2】図 1 のカーテン吊下器具を用いて構成されたカーテンセットを示す概略側面図。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 1 】

図 1 に本発明の一実施形態であるカーテン吊下器具を示し、図 2 にこのカーテン吊下器具を用いて構成されたカーテンセットを示している。

このカーテン吊下器具 1 0 は例えばナイロン等の樹脂からなり、カーテンバランス 2 0 の上縁を支持するバランス支持部 1 1 と、カーテンレール 3 0 のランナー 3 1 に係合するランナー係合部 1 2 と、既成カーテン 4 0 の上縁を吊り下げる吊下部 1 3 とを備える。

【 0 0 1 2 】

この実施形態においてバランス支持部 1 1 は略 U 字状（略鰐口状）に形成されており、この略 U 字状（略鰐口状）のバランス支持部 1 1 でカーテンバランス 2 0 の上縁であるヒダ部（ツマミ）を挟み込むようにして下方から支持する。また、このバランス支持部 1 1 は、カーテンバランス 2 0 の上縁に突き当たる突起 1 1 a を有する。この突起 1 1 a により、バランス支持部 1 1 がカーテンバランス 2 0 の上縁から下方に抜けにくくなる。

【 0 0 1 3 】

この実施形態においてランナー係合部 1 2 は、略 U 字状（略鰐口状）のバランス支持部 1 1 の一辺 1 1 b に、上下方向の位置が調整可能に装着されている。すなわち、このランナー係合部 1 2 は、バランス支持部 1 1 の一辺 1 1 b に対してアジャスター機構を介して、上下方向の位置が調整可能に装着されている。また、このランナー係合部 1 2 は略逆 U 字状に形成されており、この略逆 U 字状のランナー係合部 1 2 は、カーテンレール 3 0 のランナー 3 1 に引っ掛けることでランナー 3 1 に係合する。

【 0 0 1 4 】

この実施形態において吊下部 1 3 は、バランス支持部 1 1 の下端から下方に伸びるベルト状の保持部材 1 4 に、上下方向の位置が調整可能に装着されている。すなわち、この吊下部 1 3 は、ベルト状の保持部材 1 4 に対してアジャスター機構を介して、上下方向の位置が調整可能に装着されている。

また、この吊下部 1 3 は、ベルト状の保持部材 1 4 に装着されるベース部材 1 3 a と、ベース部材 1 3 a から斜め下方に伸びる板状の吊下部材 1 3 b とからなり、吊下部材 1 3 b に、既成カーテン 4 0 の上縁のフック 4 1 と係合する係合孔 1 3 c が設けられている。すなわち、この吊下部 1 3 は、係合孔 1 3 c が既成カーテン 4 0 の上縁のフック 4 1 と係合することで、既成カーテン 4 0 の上縁を吊り下げる。このとき、吊下部材 1 3 b はベース部材 1 3 a から斜め下方、言い換えれば、ベース部材 1 3 a 及び保持部材 1 4 から離れる方向に伸びているから、吊下部材 1 3 b の係合孔 1 3 c に既成カーテン 4 0 の上縁のフック 4 1 を係合させやすい。

なお、吊下部 1 3 が既成カーテン 4 0 の上縁を吊り下げる構成は、この実施形態には限定されず、例えば既成カーテン 4 0 の上縁を、フックを用いずに直接吊り下げるようにしてもよい。

10

20

30

40

50

【 0 0 1 5 】

ベース部材 1 3 a にはロック部材 1 3 d が設けられている。このロック部材 1 3 d は、ベルト状の保持部材 1 4 のベルト面 1 4 a と選択的に係合することで、保持部材 1 4 に対するベース部材 1 3 a (吊下部 1 3) の上下方向の位置を調整する。この実施形態では、保持部材 1 4 のベルト面 1 4 a には複数の突条 1 4 b が上下方向に等間隔で設けられており、これらの突条 1 4 b にロック部材 1 3 d が選択的に係合する。すなわち、ロック部材 1 3 d を図 1 (b) において矢印方向に押し込むと、ロック部材 1 3 d と突条 1 4 b との係合が外れ、ベース部材 1 3 a (吊下部 1 3) はベルト面 1 4 a に沿って上下方向に移動自在となる。そして、ベース部材 1 3 a (吊下部 1 3) の上下方向の位置を所望の位置に調整した後、ロック部材 1 3 d を元に戻せばロック部材 1 3 d が突条 1 4 b と係合し、ベース部材 1 3 a (吊下部 1 3) はその上下方向の位置に固定 (ロック) される。

10

【 0 0 1 6 】

保持部材 1 4 の下端部には、ベース部材 1 3 a (吊下部 1 3) が下方に抜けるのを防止するストッパー 1 4 c が設けられている。このストッパー 1 4 c は保持部材 1 4 のベルト面 1 4 a をカエリ状に加工して形成したもので (図 1 (c) 参照)、保持部材 1 4 の下端からベース部材 1 3 a (吊下部 1 3) を装着することは可能であるが、一旦ベース部材 1 3 a (吊下部 1 3) を装着すると、このベース部材 1 3 a (吊下部 1 3) が下方に抜けるのを防止する。

【 0 0 1 7 】

ここでこの実施形態では、保持部材 1 4 のベルト面 1 4 a は、カーテンバランス 2 0 の裏面と直交するように形成されている。これにより、カーテンバランス 2 0 が例えばレース地であったとしても、このカーテンバランス 2 0 の正面からは保持部材 1 4 のベルト面 1 4 a は見えないので美観が損なわれることはない。同様に、ロック部材 1 3 d も上下方向に沿うように設けて、カーテンバランス 2 0 の正面からは目立たないようにしている。

20

【 0 0 1 8 】

次に、このカーテン吊下器具 1 0 を用いて図 2 に示すようなカーテンセットを構成する方法の一実施形態について説明する。

まず、カーテン吊下器具 1 0 のバランス支持部 1 1 でカーテンバランス 2 0 の上縁を支持し、この状態でランナー係合部 1 2 をカーテンレール 3 0 のランナー 3 1 に係合する。その後、吊下部 1 3 の吊下部材 1 3 b の係合孔 1 3 c に既成カーテン 4 0 の上縁のフック 4 1 を引っ掛けることで、この既成カーテン 4 0 の上縁を吊下部 1 3 で吊り下げる。

30

ここで、既成カーテン 4 0 の上縁を吊下部 1 3 で吊り下げた後に、ランナー係合部 1 2 をカーテンレール 3 0 のランナー 3 1 に係合するようにしてもよいが、この場合、バランス支持部 1 1 がカーテンバランス 2 0 の上縁から下方に抜けやすくなるので、ランナー係合部 1 2 をカーテンレール 3 0 のランナー 3 1 に係合させた後に、既成カーテン 4 0 の上縁を吊下部 1 3 で吊り下げようようにすることが好ましい。なお、この実施形態では、前者の方法であってもバランス支持部 1 1 がカーテンバランス 2 0 の上縁から下方に抜けにくくするために、前述のとおりバランス支持部 1 1 に、カーテンバランス 2 0 の上縁に突き当たる突起 1 1 a を設けている。

【 0 0 1 9 】

40

この既成カーテン 4 0 (カーテンセット) の吊り下げ丈の調整は、吊下部 1 3 の上下方向の位置を調整することにより行う。この吊り下げ丈の調整代は保持部材 1 4 の長さによって決まり、この実施形態では保持部材 1 4 の長さは 2 0 c m であるから、吊り下げ丈の調整代も 2 0 c m である。なお、既成カーテン 4 0 の正味の吊り下げ丈は、バランス支持部 1 1 等の長さ分、長くなり、この実施形態では、例えば高さ 2 0 0 c m の既成カーテンの場合、正味の吊り下げ丈は 2 1 0 ~ 2 3 0 c m に調整できる。このように、カーテン吊下器具 1 0 を用いることにより、既成カーテンの吊り下げ丈を従来よりも自由に調整できる。なお、既成カーテン 4 0 の上縁には、図 2 に表れているように公知のアジャスター機構を設けることもでき、このアジャスター機構により補助的に吊り下げ丈の調整を行うこともできる。

50

そして、このカーテン吊下器具 1 0 によれば、既成カーテンに前述のような折返し部は生じないので、ホコリ等が溜りやすいという問題やレースカーテンと干渉するといった問題は生じない。

【 0 0 2 0 】

更に、この実施形態のカーテンセットによれば、カーテン吊下器具 1 0 により既成カーテン（カーテンセット）の吊り下げ丈を従来よりも自由に調整できると共に、カーテンバランス 2 0 により高級感を付与することができる。なお、カーテンバランス 2 0 により高級感を付与する点から、カーテンバランス 2 0 は、吊下部 1 3 を下限位置としたときに、既成カーテン 4 0 の上縁が隠れるような長さを有することが好ましい。このようにすれば、例えば既成カーテン 4 0 が 1 . 5 倍ヒダニツ山であっても、2 倍ヒダ三ツ山のカーテン

10

【符号の説明】

【 0 0 2 1 】

1 0 カーテン吊下器具

1 1 バランス支持部

1 1 a 突起

1 1 b バランス支持部の一辺

1 2 ランナー係合部

1 3 吊下部

20

1 3 a ベース

1 3 b 吊下部材

1 3 c 係合孔

1 3 d ロック部材

1 4 保持部材

1 4 a ベルト面

1 4 b 突条

1 4 c ストッパー

2 0 カーテンバランス

3 0 カーテンレール

30

3 1 ランナー

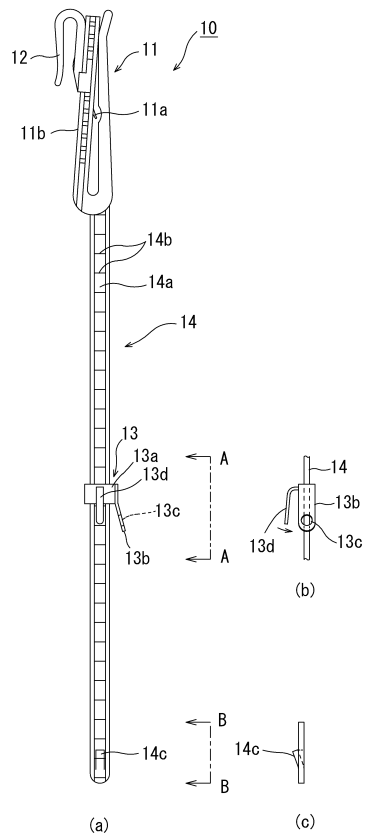
4 0 既成カーテン

4 1 フック

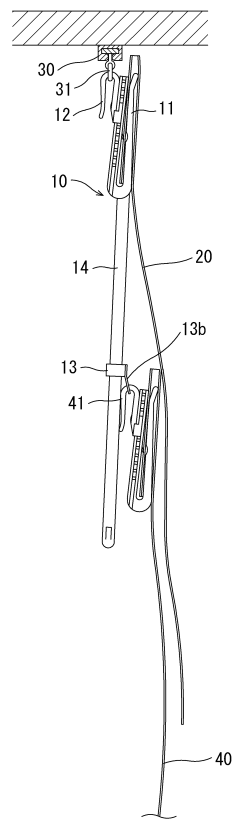
40

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 登録実用新案第 3 0 4 5 5 6 8 (J P , U)
 特開 2 0 0 0 - 0 7 0 1 1 5 (J P , A)
 特開 2 0 0 9 - 0 8 2 3 3 2 (J P , A)
 米国特許出願公開第 2 0 1 5 / 0 3 2 2 9 8 3 (U S , A 1)
 西独国特許出願公開第 0 2 5 2 6 8 2 0 (D E , A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
 A 4 7 H 1 / 0 0 - 2 3 / 1 4